

大阪公立大学 富田林市との連携事例

自治体の課題(ニーズ)



富田林市では安心安全のまちづくりに取り組んでいて、未来を担う中学生に、防災知識・技術を身につけてもらい、次世代の防災リーダーとして活躍してもらうことを期待している。このために、防災人材育成のターゲットとして、次世代を担う中学生を位置づけ、大阪公立大学とともに防災に関連する研究成果を活用した取り組みを進めたい。中学生以外にも、災害時の市民の自助・共助を中心とした防災力向上を目指す取り組みを連携して実施したい。

研究成果(シーズ)の還元



大阪公立大学都市科学・防災研究センターと富田林市とで大学の教育・学術研究機能の向上および富田林市における安心安全のまちづくりの推進を目的に、「地域防災に関する連携協定」を締結した。本協定に基づく取り組みとして、富田林市内在住・在学の中学生を対象とする「ジュニア防災リーダー養成講座」で、フィールドワーク「防災まち歩き」を実施し、大学で開発した「防災教育向けARアプリ」を手に、まち中に潜む危険な場所の確認や災害時に起こりうる被害のAR体験を含め、地域の再認識と防災意識の向上に取り組み始めた。

この連携に携わった研究者



理学研究科
三田村 宗樹 教授

(研究者からのメッセージ)

地域の災害リスクは、地域ごとに多様で、単に地域行政が用意したハザードマップだけを見ても具体的に何が起こるのかの理解を深められません。わが街が各種の災害でどのように変貌するのかを、まち歩きを通じて再認識することが大切です。それを補助するために開発したARアプリも活用し、若い世代に防災意識を高めてもらい、行動に移してもらうことが重要だと考えています。

※ 研究者の経歴等は(URL: <https://researchmap.jp/00183632>)をご参照下さい。